～うえぬだかぐら～

［山口県岩国市指定　無形民俗文化財］

上沼田神楽保存会

上沼田神楽の発祥は享保2年（1717年）以前。主として古事記（上巻）に記された神話に基づく神楽で、幸せを求め災いを防ぐことを目的として舞い伝えられてきた。

戦後は伝承者の不足などから一時活動が中断されたものの、"伝統を絶やしてはならない"という強い想いにより復活。昭和56年には錦町の無形文化財の指定を受ける。

現在は、3世代にわたるメンバーで県内外の奉納や各種イベントに参加し、伝統芸能の継承に努めている。

《上沼田神楽保存会》
山口県岩国市錦町須川上沼田
会長　鮎川哲男
連絡先　090-7373-4164

上沼田神楽　検索

天神地祇（てんしんちぎ）

いわゆる清祓いの神楽であり、この舞いにより神庭（かんど）を清め、神々を迎え入れる。

神社等の奉納の際には必ず最初に舞われる。

火の神（ひのかみ）

伊耶那美命（いざなみのみこと）は火の神を産んだ為、御陰が焼けて亡くなられた。

妻の死に怒り悲しむ伊耶那岐命（いざなぎのみこと）は、各地で禍を起こす火の神を斬り倒す。

大国主の神（おおくにぬしのかみ）
事代主の神（ことしろぬしのかみ）

豊葦原（とよあしはら）を支配しようとする天照大御神（あまてらすおおみかみ）は使者を立て、大国主と事代主の神々との交渉の末、ついに国を譲り受ける。

［事代主の神］

薙刀舞（なぎなたのまい）

身丈以上の薙刀を自在に操る猿田彦（さるたひこ）は、天孫降臨（てんそんこうりん）にあたり、天地の狭間で禍を起こす荒神を平定する。

黄泉醜女（よもつしこめ）

伊耶那岐命（いざなぎのみこと）は、死んだ妻:伊耶那美命（いざなみのみこと）を甦らせるため黄泉の国へ向かうが、妻はもう黄泉の国の住人となっていた。醜く変わり果てた姿を見られた伊耶那美命は激怒して鬼人達を向かわせる。これが退けられると、ついには伊耶那美命自身が夫に立ち向かうが、激しい争いの末夫婦は離別する。

天の岩戸（あまのいわと）

弟神：須佐之男命（すさのおのみこと）の乱暴が起因し、天照大御神（あまてらすおおみかみ）が岩戸にこもると、世の中は暗闇に包まれた。困った神々は思金命（おもいかねのみこと）の指示により岩戸の前で大騒ぎをし、天照大御神を誘い出すことに成功する。この事件を受けて、須佐之男命は高天原を追放された。この神話の中で造られる八坂瓊曲玉（やさかにのまがたま）、八咫鏡（やたのかがみ）は、日本三種の神器として伝わっている。

八俣大蛇（やまたのおろち）

頭が八つ、尾が八つの大蛇が毎年現れ娘を喰らい、最後に残る櫛名田比売（くしなだひめ）もさらわれようとしている。須佐之男命（すさのおのみこと）は、娘を娶ることを条件に大蛇退治を引き受けると、老夫婦に酒樽を用意させ、大蛇を酔わせたところを斬り倒す。退治した大蛇の尾から見つけた天之叢雲剣（あまのむらくものつるぎ）（草薙の剣）は、日本三種の神器の一つとして今に伝わる。

☆公演依頼受け付けます☆　奉納神楽やイベント等々お受けします。　まずはご連絡ください!